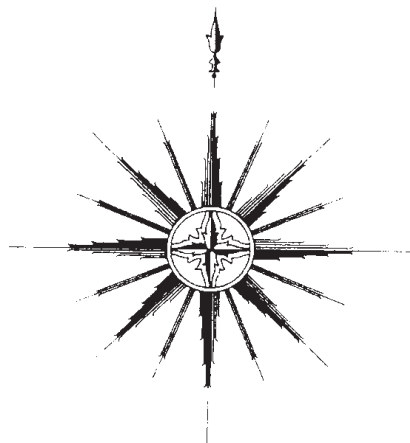


# 研究活動報告

(2021年4月～2022年3月)



## 凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

# 文化財論講座

## 上 條 信 彦

### (1)現在の研究テーマ

- 東アジア先史時代の食文化・食品加工技術の研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 上條信彦『国史跡山王圀遺跡の研究—石器・石製品・土製品・骨角器編』弘前大学北日本考古学研究センター、2021年8月、分担執筆

#### [その他]

- 上條信彦「出土繊維・織物の科学分析（特集 原始・古代の紡織研究）」『月刊考古学ジャーナル』753号、pp.20-24、2021年5月、単著
- 上條信彦「板垣優河氏の一連の磨石・石皿類研究に対する論評」『縄文時代』32号、pp.131-150、2021年5月、単著
- 上條信彦、柴正敏、福井麻里「東北の弥生土器はどこで作られたか：類遠賀川系土器の胎土分析」『日本文化財科学会第38回大会ポスター賞』日本文化財科学会、2021年10月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 上條信彦、柴正敏、福井麻里「東北の弥生土器はどこで作られたか？類遠賀川系土器の胎土分析」日本文化財科学会第38回大会、2021年9月19日～20日、共同
- 上條信彦、宮内信雄、堀内晶子、吉田邦夫、宮田佳樹「北限の稲作地帯の土器とその残存脂質分析」日本考古学協会第87回総会、2021年5月22日～23日、共同
- 櫻庭陸央、植月学、上條信彦「縄文時代晩期内陸部における動物資源利用」日本考古学協会第87回総会、2021年5月22日～23日、共同

#### [講演]

- 上條信彦「最新研究で分かった北東北の縄文時代！」黒石商工会議所十日会1月例会卓話、2022年1月11日、単独

### (4)学外集中講義など

- 集中講義「ここまで分かった！縄文時代の暮らし」札幌月寒高等学校、2021年6月23日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究（A）「プラント・オパール中の遺伝情報を利用した稲作史研究手法の構築に向けた学際的研究」研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究（S）「東アジアにおける農耕の拡散・変容と牧畜社会生成過程の総合的研究」研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究（B）「稲作北限域における農耕化プロセスの研究」研究代表者、2019年度～2022年度
- 科学研究費基金、挑戦的研究（萌芽）「遺跡出土アスファルトの高精度原産地推定法の開発と先史流通システムの解明」研究代表者、2019年度～2021年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「山王圀遺跡出土資料の学術調査」栗原市教育委員会、2014年度～
- 共同研究「佐藤コレクション出土米の分析」大阪府弥生文化博物館、2013年度～

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 北日本考古学研究センター特別展「浅瀬石川・平川流域の考古学」、2021年10月9日～11月7日

## 杉 山 祐 子

### (1)現在の研究テーマ

- 在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化（FIH: Folk Innovation History, or LIH: Local Innovation History）、開発プロジェクトの「その後」
- グローバル化の進展と「現金の社会化」、ジェンダー
- 北東北地域における小規模アグリビジネス

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 阪本公美子、杉山祐子『日本の国際協力 中東アフリカ編』 ミネルヴァ書房、2021年8月、共著（分担執筆）

[論文]

- Yuko SUGIYAMA, Tadasu TSURUTA 「Conflicting Paradigms of On-farm Technological Innovation: A Case among the Bemba, Northern Zambia」 『Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy』 pp.99-129、2021年8月、共著
- 杉山祐子「地域と何を、どう共創するのか」 『SDGsを足許から考えかたちにする』 pp.173-188、2022年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 杉山祐子「イフムワの植林プロジェクト：日稼ぎから苗木育成技術の定着へ」 アフリカ農村における現金獲得活動と在来技術革新史研究会、2021年12月4日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究（S）「社会性の起原と進化—人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」 研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究（B）「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」への視角」 研究分担者、2018年度～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「アフリカ農業・農村社会史の再構築：在来農業革命の視点から(2)」 研究分担者、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2020年度～2021年度

## 関根 達人

(1)現在の研究テーマ

- 縄文、中近世考古学、北方史、石造物

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 関根達人『国史跡山王圀遺跡の研究Ⅲ—土器編1（西区Ⅲ層・Ⅳ上層出土土器）』 弘前大学北日本考古学研究センター、2022年3月、単著

[論文]

- 関根達人、柴正敏「居徳遺跡出土の大洞A1式装飾壺の製作地と製作者」 『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』 26号、pp.1-12、2022年3月、共著
- 関根達人、柴正敏「火山ガラス分析を用いた南部地方の土器の胎土に関する基礎的研究2」 『八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館研究紀要』 11号、pp.1-14、2022年3月、共著
- 関根達人、福井敏隆、小石川透、高橋奈里、田村眞子「弘前市西茂森普門院本堂の墨書について」 『弘前大学国史研究』 151号、pp.80-92、2021年10月、共著
- 関根達人「西日本出土の大洞A1土器の製作地と製作者—高知県居徳遺跡と沖縄県平安山原B遺跡—」 『大阪府立弥生文化博物館開館30周年記念特別展図録『近畿最初の弥生人』』 pp.66-75、2021年10月、単著
- 関根達人「アイヌ民族とタバコ」 『たばこ史研究』 153号、pp.2-14、2021年6月、単著

[その他]

- 関根達人「アイヌから見た日本」 『月刊みんぱく』 46巻2号、pp.6-7、2022年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人「疫病と石造物」 感染症と考古学、2022年3月5日、単独
- 関根達人、柴正敏「高知県土佐市居徳遺跡出土の大洞A1式装飾壺はどこでつくられたか？」 日本考古学協会第87回総会研究発表、2021年5月23日、共同
- SEKINE Tatsuhito 「The eruption at Matsumae Oshima in 1741 and Memorial service monuments of the dead of Kanpou tsunami」 The 30th International Tsunami Symposium、2021年7月1日～18日、単独

[講演]

- 関根達人「モノからみた津軽と蝦夷地」 令和3年度第1回高岡の森弘前藩歴史館講座、2021年11月13日、単独

- 関根達人「文化財の価値を引き出し活かす」令和3年度第1回地域未来創生塾、2021年10月13日、単独
  - 関根達人「墓石が語る江戸時代」令和3年度第1回のへじ生涯学習大学、2021年7月27日、単独
  - 関根達人「タマサイからみたアイヌ文化」みんぱくビーズ研究最前線－ビーズの魅力を探るその1「玉からみたアイヌモシリ」、2021年10月24日、単独
  - 関根達人「縄文時代の盛土墓―松前町上川遺跡の発掘調査―」令和3年度松前町歴史講演会、2021年11月20日、単独
  - 関根達人「墓石が語る江戸時代」令和3年度あおもり県民カレッジ十和田キャンパス講座、2021年11月29日、単独
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「奄美群島の葬墓制に関する考古学的研究」研究代表者、2021年度～2025年度
  - 特定研究助成金「考古学と自然科学の融合による北日本縄文文化の研究」公益財団法人高梨学術奨励基金、研究代表者、2020年度～2022年度
  - 基盤研究 (B)「サハリンアイヌの総合的研究：その成立と変貌」(研究分担者) 2020年度～2023年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 是川縄文館第3期共同研究「火山ガラスからみた八戸地域における土器の変遷と地域間交流の解明」(2019～2021年度)
  - 人文社会科学部附属北日本考古学研究センター研究協定「山王圀遺跡出土資料の研究協力に関する協定」(宮城県栗原市教育委員会、2020～2025年度)
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- 展示会「浅瀬石川・平川流域の考古学」弘前大学人文社会科学部附属北日本考古学研究センター、2021年10月9日～11月7日

## 宮坂 朋

- (1)現在の研究テーマ
- ローマ美術における私的領域から公的領域への格上げの問題
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「古代性の指標としての様式―東地中海世界における古代末期壁画様式研究―」研究代表者、2018年度～2022年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 講演「地域未来創生塾 現代アートで街づくり アートを語ろう～現代美術のリアルとファンタジー～」2021年10月27日、ヒロロ

## 山田 巖子

- (1)現在の研究テーマ
- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話
- (2)著書、論文、その他
- [その他]
- 山田巖子「幽霊画とは何か 津軽の民俗学から」『時空旅人』63号、pp.88-91、2021年7月、単著
  - 山田巖子「生命の弁別と「障害」の表象」『障害史研究』3号、pp.70、2022年3月、単著
  - 山田巖子、原克昭「青森の民俗資料や文献史資料など文化資源の発見と活用に関する「青森モデル」の構築と展開」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.63-66、2022年2月、共著
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- 山田巖子「生命の弁別と「障害」の表象」障害史研究会、2021年7月25日、単独
  - 山田巖子「旧小川原湖民俗博物館の映像資料」日本民俗学会第73回年会、神奈川大学(オンライン参加)、2021年10月10日、単独
- (4)学外集中講義など
- 集中講義「宗教学特論Ⅲ」東北大学、2021年12月24日～27日
  - 出張講義「マイノリティと関わる「民俗語彙」」弘前高等学校、2021年10月15日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「障害の歴史性に関する学際統合研究―比較史的な日本観察―」研究分担者、2019年度

～2023年度

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B) 「『知識』の再配置と実践－東北の巫者と寺院をめぐって－」研究代表者、2021年度～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 受託研究「野辺地町立歴史民俗資料館民俗展示」研究代表者、野辺地町教育委員会、2021年度
- 共同研究「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」人間文化研究機構、2021年度

## 片岡太郎

(1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 片岡太郎「文化財保全活動と保存科学」『歴史文化資料保全コーディネーター講座 テキストブック』2022年3月、単著
- 佐々木由香、片岡太郎「炭化米塊のX線CT画像解析」『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第700集新井遺跡』700巻、pp.306-307、2022年3月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 片岡太郎、田坂里穂、関根達人「屋外石造文化財の保存処理経過の記録におけるSfMの有効性に関する検証－青森県黒石市指定文化財「獅子が沢のしし石」の保存処理を通して－」日本文化財科学会第38回大会、2021年9月18日～19日、共同

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究 (B) 「X線CTを使った縄文時代の漆器製作技術の体系化」研究代表者、2016年度～2021年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (A) 「石材構築文化財の保全のための3次元デジタルアーカイブの標準化の研究」研究分担者、2020年度～2024年度
- 科学研究費基金、国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) 「3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用」研究分担者、2020年度～2024年度

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「三内丸山遺跡出土漆塗り製櫛の構造分析」研究代表者、三内丸山遺跡センター、2021年度

## 葉山茂

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 葉山茂「漁に出た女性の生活史：野辺地町聞き取り調査から」『地域研究方法論の総合的検討』pp.17-32、2022年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 葉山茂「地域の災前と災後をどうつなぐか－国立歴史民俗博物館での活動から」令和3年度青森県博物館大会、2021年11月26日、単独
- 葉山茂「物語ることと身体的経験－気仙沼の被災資料整理の現場から」日本口承文芸学会第81回研究例会「シンポジウム：東日本大震災から11年－震災をめぐる現場の声と研究者－」、2022年3月20日、単独

[講演]

- 葉山茂「こぎん刺しの魅力の発見を「再発見」する」ひらかわ文化財講座、2021年11月20日、単独
- 葉山茂「地域の将来を考える手掛かりとしての文化財」弘前大学リレーシンポジウム、2021年5月13日、単独
- 葉山茂「気仙沼湾内の漁家のはがき資料からみる家と生業の変遷－宮城県気仙沼市・尾形家資料を事例として」共同利用研究集会「三陸地域における漁村民俗学－震災と漁業、漁民の暮らし－」、2021年7月30日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (C) 「漁業者のライフストーリーにみる地域居住継続の要因」研究代表者、2021年度～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 受託研究「野辺地町立歴史民俗資料館収蔵資料の保存・活用に関する調査業務」研究分担者、野辺地町教育委員会、2021年度

## 佐々木 あすか

(1)現在の研究テーマ

- 仏師運慶とその仏像の研究
- 古代・中世の北東北の仏像に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 佐々木あすか『Pen BOOKS 2人の男が仏像を変えた 運慶と快慶。』CCCメディアハウス、2021年7月、監修・分担執筆

(3)研究発表、講演

[講演]

- 佐々木あすか「仏像の調査と修理—地域文化資源を守る取り組み—」第5回地域未来創生塾、2021年12月8日、単独

## 思想文芸講座

### 今井正浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典古代の思想文化史全般
- 古代ギリシア・ローマ期の動物の発生理論に関する研究
- ヒポクラテス、ガレノスに代表される古代ギリシア・ローマ期の医学者たちに関する研究
- アリストテレスの動物学に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 今井正浩『科学史事典』(株)丸善出版、2021年5月、分担執筆

[その他、翻訳注解]

- 今井正浩「ガレノス『胚子の形成について』—古典ギリシア語からの翻訳と注解—」『人文社会科学論叢』12号、pp.23-68、2022年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 今井正浩「医学者ガレノスの発生理論における基本問題」日本科学史学会第68回年会、2021年5月22日～23日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究(C)「動物の生殖発生をめぐる論争史を通して見た西洋古代の人間観の思想文化史的解明」研究代表者、2019年度～2022年度

### 李 梁

(1)現在の研究テーマ

- 近世東アジア知識論の研究、漢訳西学書の研究、イエズス会の教育思想研究

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究(B)「日本における上海土山湾工房作品の流布と影」研究分担者、2021年度～2025年度

### 泉谷安規

(1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ
- シュルレアリスム
- 20世紀大戦間期の文学と思想

(2)著書、論文、その他



[論文]

- 泉谷安規「通りすがりの女性—アンドレ・ブルトンの人生と作品を横断するシュザンヌ・ミュザール—」『人文社会科学論叢』第11号、pp.53-80、2021年8月、単著

[その他]

- 泉谷安規「文学のなかに人間の危機を読む—アルベール・カミュ『ペスト』を例にして」『弘前大学人文社会科学部 国際公開講座 資料集』pp.15-30、地域未来創生センター、2021年11月、単著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 泉谷安規「文学のなかに人間の危機を読む—アルベール・カミュ『ペスト』を例にして」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター国際公開講座、2021年11月3日、単独

(4)学外集中講義など

- 模擬講義「『星の王子さま』の世界を読みとく」秋田県立大曲高等学校（オンライン）、2021年10月13日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 「日本フランス語フランス文学会2021年度東北支部大会」、開催主催校：弘前大学（オンライン）、2021年11月27日

## 原 克 昭

(1)現在の研究テーマ

- 日本思想史、中近世期の神仏習合思想を基調とする宗教文芸、神話注釈の研究

(2)著書、論文、その他

[その他、書評]

- 原克昭「書評：阿部泰郎著『中世日本の王権説話』」、『説話文学研究』第56号、pp.104-107、説話文学会、2021年9月、単著

[その他、報告書]

- 原克昭（監修）『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第4集、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト、2022年2月、共著・監修
- 植木久行（監修）・原克昭（編集）『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第8集、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・弘前藩藩校資料調査プロジェクト、2022年3月、共著・編集

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 原克昭「津軽寺院圏における神道伝授」、日本仏教総合研究学会第20回学術大会、2021年12月12日、オンライン開催、単独

[講演、討論]

- 阿部泰郎・三村三千代・渡辺麻里子・原克昭「寺院資料調査から地域文化振興を考える——深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて——」、2021年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（第4回深浦フォーラム）、2021年9月26日、弘前大学（オンライン）、共同

[講演、調査報告]

- 原克昭「東奥義塾高校図書館所蔵日本思想史関係典籍群について——津軽地域における山鹿関係資料の離合集散状況——」、2021年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、2021年11月21日、弘前大学、単独

(4)学外集中講義など

- 集中講義「日本思想史特論Ⅰ」、東北大学大学院文学研究科日本思想史講座、2021年10月22日、25日、26日、29日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「中世後期から近世前期における吉田家の学問体系と神話注釈に関する神道思想史研究」研究代表者、2020年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究（B）「『知識』の再配置と実践——東北の巫者と寺院をめぐる——」研究分担者、2020年度～2022年度
- 科学研究費基金、基盤研究（C）「弘前藩藩校『稽古館』旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集成の解明」研究分担者、2021年度
- 青森学術文化振興財団助成金「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽青森地域振興事業」代表者、2021

年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 2021年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（第4回深浦フォーラム）、弘前大学（オンライン）、2021年9月26日
- 2021年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前大学、2021年11月21日

## 畑 中 杏 美

(1)現在の研究テーマ

- 20世紀英文学における老いと笑いの表象
- Muriel Sparkの小説における〈悪〉と〈罪〉

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 畑中杏美「[旅]をめぐるイギリス小説—空間と語りの変遷：Sparkのなかの 아프리카」日本英文学会中部支部第73回大会、2021年10月16日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究（B）「20世紀イギリス小説における老いと笑いの表象」研究代表者、2018年度～2022年度

## 横 地 徳 廣

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 横地徳広『戦争の哲学：自由・理念・講和』東北大学出版会、2022年1月、単著

[論文]

- 横地徳広「人間と時間の小史：多様な虚実のなかで」『人文社会科学論叢』12号、単著
- 横地徳広「エックハルトと超越論的ハイデガー：無・共同存在・気遣い再考」『比較文化研究』143号、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 横地徳広「人間、言葉、認識：チンパンジーでもAIでもなく……」哲学論集研究会第8回研究会、2021年9月26日、単独
- 横地徳広「アナログな形とデジタルな数の媒介について」日本比較文化学会東北支部大会、2021年12月25日、単独
- 横地徳広「カント図式論の現代的解釈：ハイデガーとヴァイトゲンシュタインのあいだで」哲学論集研究会第13回研究会、2021年11月27日、単独
- 横地徳広「価値と極化」哲学論集研究会第11回研究会、2021年10月10日、単独

## コミュニケーション講座

### 木 村 宣 美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学（統語論・意味論）：
  1. 右方移動現象と併合及び線形化のメカニズム
  2. 述語（動詞句）削除に対する2種類のbeに基づく分析
  3. 文体的倒置・there構文・as挿入節・比較節の節構造及び派生過程

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 木村宣美「2種類の倒置文」『人文社会科学論叢』11号、pp.27-51、2021年8月、単著
- 木村宣美「後置された名詞修飾辞を伴う後置文」『人文社会科学論叢』12号、pp.1-22、2022年2月、単著

(4)学外集中講義など

- 出張講義「英語学入門：文の中に埋もれている「文」を発掘する！」青森県立木造高等学校（オンライン）、2021年9月14日



(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「2種類の助動詞倒置文の基底構造と派生メカニズムの解明」研究代表者、2020年度～2022年度

## 山本 秀樹

(1)現在の研究テーマ

- 地理情報システム (GIS) による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「デジタル世界言語地図による世界諸言語の遠い類縁関係の検証と解明」研究代表者、2021年度～2024年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」研究共同員、2020年度～2022年度

## 熊野 真規子

(1)現在の研究テーマ

- 複言語・複文化教育、フランス語教育、教養教育としての教育ツーリズム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊野真規子「2020年度『弘前×フランス』プロジェクト—学生はコロナ禍をどう乗り越えようとしたか」『RENCONTRES』35巻、2021年7月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊野真規子「教室と現実の世界をつなぐこと/Relier la classe au monde réel」Rencontres Pédagogiques du Kansai 2022 (第35回関西フランス語教育研究会)、2022年3月28日～29日、オンライン、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「『地域への目覚め』を介した日本型複言語・複文化教育モデルと複文化教育交流実験検証」研究代表者、2020年度～2023年度

## 小野寺 進

(1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 小野寺進「エスタの自己抑圧的語りと『荒涼館』」『東北』55号、pp.1-18、2022年3月、単著

[その他]

- 小野寺進「チャールズ・ディケンズ作品の語りに関する数量的調査」『人文社会科学論叢』11号、pp.1-4、2021年8月、単著

## 新永 悠人

(1)現在の研究テーマ

- 北琉球諸語の文法、言語類型論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 新永悠人「方言研究の類型論」『弘前大学国語国文学』43号、pp.29-47、2022年3月、単著

[その他]

- 新永悠人「60音の世界—ひらがなで書けない音を文字にする方法—」『弘前大学人文社会科学部オンラインキャンパスガイド』pp.7-8、2021年7月、単著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 新永悠人「方言の文法書を書くということ」弘前大学国語国文学会第62回大会、2021年11月13日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究「奄美大島宇検村内の隣接する多地点方言間の体系的差異の解明」研究代表者、2018年度～2022年度

## 堀 智 弘

(1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究、奴隷制文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 堀智弘「The Dialectics of Barbarous Civilization: Black Transnational Modernism in Claude McKay's *Banjo*」『Texas Studies in Literature and Language』63巻4号、pp.410-433、2021年12月、単著

[その他]

- 堀智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第九章～第十章」『人文社会科学論叢』11号、pp.234-246、2021年8月、単著
- 堀智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第十一章～第十二章」『人文社会科学論叢』12号、pp.212-224、2022年2月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究(C)「科学言説とアフリカ系アメリカ人思弁的フィクションの系譜の再構築」研究代表者、2021年度～2023年度

## 楊 天 曦

## 高 内 悠 貴

(1)現在の研究テーマ

- アメリカ帝国史、ジェンダー・セクシュアリティの歴史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 武内進一、中山智香子『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ アメリカからグローバル世界へ』東京外国語大学出版会、2022年3月、分担執筆

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Yuki Takauchi「Love Across Empires: Filipino Base Workers, Interracial Marriage, and the Legacy of Japanese Colonialism in Occupied Okinawa」American Studies Association年次大会、2021年10月12日、Zoom参加、単独
- Yuki Takauchi「Towards a Feminist Historiography of the US Occupation of Okinawa: Analyzing the Intersections of Power in Red-light Districts during the Vietnam War」第55回アメリカ学会年次大会、2021年6月6日、Zoom参加、単独

## 中 野 顕 正

(1)現在の研究テーマ

- 能楽作品の注釈的研究
- 當麻曼陀羅および曼陀羅縁起の発達史的研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 伊藤聡、鈴木英之、大東敬明、中野顕正、名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター監修、伊藤聡編『真福寺善本叢刊〈第三期〉神道篇 第3巻 御流神道』臨川書店、2021年7月、共著

[論文]

- 中野顕正「當麻曼茶羅縁起成立考」『古代中世文学論考』43号、pp.251-315、2021年4月、単著

- 中野顕正『『当麻曼陀羅不審問答抄』の成立環境』『仏教文学』46号、pp.119-130、2021年6月、単著
- 中野顕正「文亀本當麻曼荼羅の成立」末柄豊・小川剛生編『室町戦国の文芸と史料』（日本文学研究ジャーナル19）古典ライブラリー、pp.42-55、2021年9月、単著
- 中野顕正「中世前期における當麻曼荼羅縁起の系譜」『都留文科大学研究紀要』94号、pp.9-32、2021年10月、単著
- 中野顕正「能《海士》の構想」高橋悠介編『宗教芸能としての能楽』（アジア遊学265）勉誠出版、pp.118-137、2022年1月、単著

[その他]

- 中野顕正「仁和寺蔵『大和国當麻寺縁起』翻刻」『弘前大学国語国文学』43号、pp.20-31、2022年3月、単著
- 中野顕正「狂言小謡本」『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』8号、pp.158-161、2022年3月、単著
- 猪瀬千尋、中野顕正「澄憲『法華経釈』提婆達多品第十二 校注稿（1）」『金沢大学国語国文』47号、pp.1-12、2022年3月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 中野顕正「戦国期公家社会と當麻曼荼羅」中近世宗教史研究会例会、2021年4月16日、単独
- 中野顕正「東奥義塾高校図書館蔵 狂言小謡本について」二〇二一年度 旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、2021年11月21日、単独
- 中野顕正「光明寺蔵「當麻曼陀羅縁起絵巻」成立試論」蓮花寺佛教研究所研究会、2022年2月21日、単独

(4)学外集中講義など

- 講義「書誌・文献学」都留文科大学、2021年4月～9月
- 講義「情報（データベース作成と利用）」都留文科大学、2021年4月～9月
- 講義「日本の伝統文化」実践女子大学、2021年4月～2022年3月
- 講義「基礎演習」日本女子大学、2021年10月～2022年3月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究（A）「能の「ことば」の包括的・領域横断的研究に向けたオンライン・リソース構築」研究分担者、2021年度～2024年度
- 科学研究費基金、研究活動スタート支援「寺社縁起との比較に基づく能作品構築方法の研究」研究代表者、2020年度～2021年度
- 公益社団法人上廣倫理財団 令和3年度研究助成「継子譚生成過程の研究」研究代表者、2022年3月～2023年2月

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究「和歌・連歌との比較を通じた謡曲修辭技法の学際的研究」研究分担者、野上記念法政大学能楽研究所、2020年度～2021年度
- 共同研究「能作品の仏教関係語句データベース作成と能の宗教的背景に関する研究」研究分担者、野上記念法政大学能楽研究所、2021年度～2022年度
- 共同研究「近世邦楽詞章における謡曲摂取用例データベースの作成」研究分担者、野上記念法政大学能楽研究所、2020年度～2021年度

## 国際社会講座

### 城本 るみ

(1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「地域特性を視座とする新たな提言のためのハンセン病療養所将来構想の比較研究」研究代表者、2019年度～2022年度

### 荷見 守 義

(1)現在の研究テーマ

- 中国明代史、東アジア近世史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 荷見守義『『大明一統志』人物伝とは—『遼東志』との関係をめぐって』『アジア遊学』259号、pp.93-103、2021年8月、単著
- 荷見守義「梅国禎と万暦二十年寧夏兵変」『人文研紀要（中央大学人文科学研究所）』100号、pp.117-151、2021年9月、単著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 荷見守義「朱元璋はなぜ南京に行ったのか—明朝建国をめぐる寒冷化・疫病・モンゴル—」弘前大学人文社会科学部国際公開講座2021、2021年11月3日、単独

(4)学外集中講義など

- 弘前大学ドリーム講座「中国 明朝の成立～気候変動・感染症のグローバル化との関係で～」五所川原高校、2021年9月16日
- 弘前大学出張講義「14世紀の危機～明朝建国と寒冷化・疫病・ポストモンゴル～」函館中部高校、2021年10月21日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集積の解明」研究分担者、2018年度～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 中央大学人文科学研究所研究チーム「アフロ・ユーラシア大陸における都市と国家の歴史」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部国際公開講座2021

## 亀谷 学

(1)現在の研究テーマ

- イスラーム世界におけるカリフ制と統治システム
- イスラーム世界における貨幣と史料論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 亀谷学「ウマイヤ朝期における銀貨の発行と流通」『歴史的世界へのアプローチ』pp.254-275、2021年12月、単著
- 亀谷学「ムスリムがはじめて建設した都市バスラー軍営都市から経済と学術の都市へ」『都市からひもとく西アジア：歴史・社会・文化』pp.16-31、2021年12月、単著

[その他]

- 熊倉和歌子、吉村武典、亀谷学、手島秀典、久保亮輔「マムルーク朝前期・軍務庁書記官のための書記術指南：スワイリーの『学芸の究極の目的』「ディーワーンの書記術と財務のペン」(第2学芸・第5部・第14章)日本語訳注」『アジア・アフリカ言語文化研究』102巻、pp.111-155、2021年9月、共著
- 亀谷学、大塚修、松本隆志「イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注(3)」『人文社会科学論叢』12号、pp.69-100、2022年2月、共著
- 亀谷学「青森における多文化共生とムスリムについての予備的考察」『地域研究方法論の総合的検討 II』pp.61-66、2022年3月、単著
- 亀谷学「カリフ」『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』pp.78-79、2022年1月、単著
- 亀谷学「ムハンマド」『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』pp.76-77、2022年1月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 亀谷学「ムハンマド：歴史学的研究は何をもたらしたか」日本オリエント学会第63回年次大会、2021年10月30日～31日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「ファーティマ朝カリフ概念の研究によるカリフ史の再構築」研究代表者、2018年度～2022年度

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「初期イスラーム時代歴史叙述におけるカリフ観の史料間比較分析」研究代表者、2021年度～2023年度

## 澤田 真一

### (1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「差異の受容—ニュージーランド文学から見たキリスト教とマオリ宗教の弁証法的融合—」研究代表者、2019年度～2022年度

## 中村 武司

### (1)現在の研究テーマ

- 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 中村武司「長い18世紀イギリスにおける軍人・議会・選挙区(2)」『人文社会科学論叢』11号、pp.5-26、2021年8月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 中村武司「長い18世紀イギリスにおける軍人・議会・選挙区」「イギリス本国史・帝国史の統合と財政軍事国家論の再考」第2回研究会、2022年3月15日、単独

### (4)学外集中講義など

- 集中講義「西洋史」ノースアジア大学経済学部、2022年2月15日～18日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「イギリス本国史・帝国史の統合と財政軍事国家論の再考」研究代表者、2020年度～2022年度

## BUTLER ALASTAIR JAMES

### (1)現在の研究テーマ

- コーパス言語学、応用言語学、プログラミング言語

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 竹内孔一、アラステア・バトラー、長崎郁、ブラシャント・バルデシ「NPCMJへのPropBank形式の意味役割と概念フレームの付与の進捗報告」『Proceedings of the Twenty Seventh Annual Meeting of the Association of Natural Language Processing』pp.1546-1549、2022年3月、共著

- 吉本啓、アラステア・バトラー、ブラシャント・バルデシ「日本語ツリーバンクからの動詞格フレームの抽出」『Proceedings of the Twenty Seventh Annual Meeting of the Association of Natural Language Processing』pp.508-512、2022年3月、共著

- Alastair Butler「Knowledge Acquisition from Natural Language with Treebank Semantics and FLORA-2」『Lecture Notes in Computer Science, New Frontiers in Artificial Intelligence. JSAI-isAI 2020』12758巻、pp.37-49、2021年6月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- Alastair Butler「Parsed corpus development with a quick access interface」Logic and Engineering of Natural Language Semantics 18 (LENLS18)、2021年11月13日～15日、単独

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「Developing a program for language teaching with parsed corpore」研究代表者、2019年度～2022年度
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「シベリア先住民諸言語のテキストコーパス構築と文法及びその構造的変化に関する研究」研究分担者、2019年度～2021年度

## 林 明

### (1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- Akira Hayashi 「Japan and Hind Swaraj」『Rethinking Mahatma Gandhi』(Jaipur: Rawat Publications) pp.136-150、2021年7月、単著

#### [その他]

- 林明「歴史から見たガンディーの魅力ーガンディー生誕日に寄せてー」『サルボダヤ』61巻10号、pp.3-8、2021年10月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 林明「ガンディーの生涯ー私たちへのメッセージー第1部イギリス時代まで」ガンディー殉難日の集い(日印サルボダヤ交友会)、2022年1月30日、単独
- 林明「ガンディーの生涯ー私たちへのメッセージー第2部南アフリカ時代」ガンディー殉難日の集い(日印サルボダヤ交友会)、2022年1月30日、単独
- 林明「ガンディーの生涯ー私たちへのメッセージー第3部インドでの活躍」ガンディー殉難日の集い(日印サルボダヤ交友会)、2022年1月30日、単独
- 林明「歴史から見たガンディーの魅力」ガンディー生誕日の集い(日印サルボダヤ交友会)、2021年10月2日、単独
- Akira Hayashi 「Feedback Speech」Two days International E-Conference on Revisiting Gandhian Perspectives on Development: Reflections on Culture, Society and Politics (University of Delhi)、2021年9月3日～4日、単独
- Akira Hayashi 「Contextualizing Gandhi's Hind Swaraj in Contemporary Japanese Art of Living」Two days International E-Conference on Revisiting Gandhian Perspectives on Development: Reflections on Culture, Society and Politics (University of Delhi)、2021年9月3日～4日、単独

## FUHRT VOLKER MICHAEL

### (1)現在の研究テーマ

- 日本と東アジアにおける歴史認識
- ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

## 永本哲也

### (1)現在の研究テーマ

- 初期宗教改革期北西ドイツ、低地地方における宗教改革支持者の宣教方法と効果

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 永本哲也「初期宗教改革期における福音派ネットワークと宣教ー1530年代アーヘン市を例にして」東北史学会西洋史部会、2021年10月2日～3日、単独

#### [講演]

- 永本哲也「新しいメディアとのつき合い方 歴史学から考える」地域未来創生塾@中央公民館、2022年1月12日、単独

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究(C)「初期宗教改革期における宣教の方法と効果:超地域的な人間関係のネットワークを中心に」研究代表者、2021年度～2025年度

## 古川 祐 貴

### (1)現在の研究テーマ

- 日本近世史、近世日朝関係史

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 古川祐貴「正徳度信使費用拝借の舞台裏ー「武備之儀」「官位之儀」の請願と「朝鮮之押」ー」『長崎県対馬歴史研究センター所報』2号、2022年3月、単著



- Masataka Aizawa, Chitoshi Mizota, Takahiro Hosono, Ryuichi Shinjo, Yuki Furukawa, Yoshihiro Nobori 「Lead isotopic characteristics of gun bullets prevailed during the 19th century in Japan Constraints on the provenance of lead source from the United Kingdom and Japan」『Journal of Archaeological Science: Reports』41号、2021年12月、共著
  - 古川祐貴「大韓民国国史編纂委員会所蔵「對馬島宗家文書」の形成」『日本史研究』711号、pp.22-43、2021年11月、単著
- [その他]
- 古川祐貴「宗義成・宗義質口宣案の伝来」『長崎県対馬歴史研究センター所報』2号、2022年3月、単著
  - 古川祐貴「対馬と私と宗家文書と」『樂 長崎を知る・遊ぶマガジン』53号、pp.46-49、2021年9月、単著
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「幕末維新期の日朝間における情報流通とネットワーク形成—対馬宗家文書を中心に」研究分担者、2020年度～2022年度
  - 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「分散型大規模大名家史料群の高度学術資源化と地域還元」研究分担者、2019年度～2022年度
  - 科学研究費基金、若手研究「近世日本の対朝鮮外交に関する構造的な研究」研究代表者、2018年度～2021年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「外交の世界史の再構築—15～19世紀ユーラシアにおける交易と政権による保護・統制」研究協力者、2021年度～2024年度
  - 弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト「東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩庫転籍調査」、2014年度～2021年度

## 情報行動講座

### 大橋 忠宏

- (1)現在の研究テーマ
- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
  - 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

### 羽 淵 一 代

- (1)現在の研究テーマ
- 親密性と近代化
  - 高度情報化とメディア文化の成熟

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 林雄亮、石川由香里、加藤秀一、苫米地なつ帆、俣野美咲、古村健太郎、釜野さおり、茂木輝順、片瀬一男、羽淵一代、元森絵里子『若者の性の現在地』勁草書房、2022年3月、共著
- Hidenori Tomita, Kunikazu Amagasa, Jason Farman, Kenichi Fujimoto, Ichiyo Habuchi 外『The Second Offline: Doubling of Time and Place』Springer、共著

[論文]

- 土橋臣吾、浅野智彦、岩田考、辻泉、羽淵一代「デジタルメディア利用に関するライフヒストリー分析の試み」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.21-34、2022年2月、共著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」研究代表者、2018年度～2021年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「パートナーの親密関係の変容に関する実証研究」研究分担者、2020年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「現代若者の再帰的ライフスタイルの諸類型とその成立条件の解明」研究分担者、2019年度～2023年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「『知識』の再配置と実践—東北の巫者と寺院をめぐって—」研究分担者、2020年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (B)「モバイル化社会の実態解明と将来構想に関する社会学的実証研究」研究分担者、2020年

度～2022年度

## 日比野 愛 子

### (1)現在の研究テーマ

- 先端科学技術の表象、社会的成立過程

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 日比野愛子「培養肉に関する消費者意識調査」竹内昌治『代替プロテインによる食品素材開発：植物肉・昆虫食・藻類利用食・培養肉が導く食のイノベーション』エヌ・ティー・エス、pp.22-31、2021年7月、分担執筆
- 日比野愛子、鈴木舞、福島真人『科学技術社会学（STS）：テクノサイエンス時代を航行するために』新曜社、2021年8月、共著

#### [論文]

- Richard Milne, Katherine I Morley, Mohamed A Almarri, Shamim Anwer, Aiko Hibino 他「Demonstrating trustworthiness when collecting and sharing genomic data: public views across 22 countries.」『Genome medicine』13巻1号、pp.92、2021年5月、共著
- Ryosuke L.Ohniwa, Kunio Takeyasu, Aiko Hibino 「Researcher dynamics in the generation of emerging topics in life sciences and medicine」『Scientometrics』127巻2号、pp.871-884、2022年1月、共著
- Richard Milne, Katherine I Morley, Mohamed A Almarri, Jerome Atutornu, Aiko Hibino 他「Return of genomic results does not motivate intent to participate in research for all: Perspectives across 22 countries.」『Genetics in medicine : official journal of the American College of Medical Genetics』24巻5号、pp.1120-1129、2022年2月、共著

#### [その他]

- 日比野愛子「ELSIの紹介」五福明夫、吉川榮和『岐路に立つ原子力を考える』大学教育出版、pp.279-281、2021年8月、分担執筆
- 日比野愛子「内部者アクションリサーチのレベル間ダイナミクス」永田素彦他監訳『実践アクションリサーチ：自分自身の組織を変える』碩学舎、中央経済グループパブリッシング（発売）、pp.148-166、2021年11月、分担執筆（翻訳）
- 日比野愛子「培養肉に関する消費者意識の特徴」木附誠一他『代替タンパク質の現状と社会実装へ向けた取り組み：培養肉、植物肉、昆虫食、藻類など』情報機構、pp.107-110、2021年11月、分担執筆
- 日比野愛子、樋口智之、清武凜、吉仲怜、山科則之、菅原良平「トノサマバツタせんべいはどのように評価されるのか：学生へのグループ・インタビュー調査より」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.35-39、2022年2月、共著
- 日比野愛子、江間有沙、清田陽司「「社会の中のAI」という視点（レクチャーシリーズ）」『人工知能』37巻2号、pp.210-221、2022年3月、共著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 日比野愛子「科学とアートの融合が見る未来」質的心理学会第18回全国大会、2021年10月23日～24日、単独

#### [講演]

- 日比野愛子、星野太「アートと科学」MAGUSアートスクール（アートとは何か）、2021年9月15日～29日、共同
- 日比野愛子「培養肉の社会受容の動向」奈良先端科学技術大学院大学「先端科学技術と社会の調和」シリーズ、2022年2月17日、単独

#### [ディスカッサント]

- 日比野愛子「新型コロナ・自然災害・原発事故についていかに分かり合うのか」科学技術社会論学会シンポジウム、2021年5月8日、単独
- 日比野愛子「現代の文脈におけるアクションリサーチの姿勢？尊厳ある縮退と集落の再生・創生プロジェクトを通して」日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会ワークショップ、2021年9月11日～12日、単独
- 日比野愛子「STSと科学技術イノベーション（STI）政策研究はどうつながるか」科学技術社会論学会第20回年次研究大会（20周年国内記念イベント）、2021年12月4日、単独

### (4)学外集中講義など

- 集中講義「知識生成のグループ・ダイナミクス」青山学院大学大学院、2021年8月20日～22日、27日～28日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤（B）「科学実践の基盤的活動とシャドウ・ワーク：科学社会学からのフレームワーク構築」研究代

表者、2020年度～2023年度

- 競争的資金「三次元組織工学による次世代食肉生産技術の創出」研究分担者、国立研究開発法人科学技術振興機構、2020年度～2024年度
- 競争的資金「持続可能社会に向けた細胞農業技術のELSI/RRIの検討」研究代表者、国立研究開発法人科学技術振興機構、2021年度～2024年度

## 増山 篤

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 増山篤「空間アクセシビリティ分析におけるRの活用可能性」『GIS—理論と応用』29巻2号、pp.25-32、2021年12月、単著
- 増山篤「段階的意思決定を考慮したログサム型時空間アクセシビリティ指標」『GIS—理論と応用』29巻2号、pp.1-13、2021年12月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究(C)「人間の認知・判断プロセスを組み入れ、かつ、実用的な時空間アクセシビリティ指標」研究代表者、2020年度～2022年度

## 内海 淳

(1)現在の研究テーマ

- XML規格を用いた文書処理

## 古村 健太郎

(1)現在の研究テーマ

- 親密な関係の維持と崩壊
- 恋人間暴力の予防教育とその評価
- 成人のアタッチメント理論

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 古村健太郎「デートDV被害の構造—被害経験の分類、友人関係や性教育との関連」林雄亮、石川由香里、加藤秀一（編）『若者の性の現在地—青少年の性行動全国調査と複合的アプローチから考える』勁草書房、2022年3月、分担執筆

[論文]

- 金政祐司、古村健太郎、浅野良輔、荒井崇史「愛着不安は親密な関係内の暴力の先行要因となり得るのか？：—恋愛関係と夫婦関係の縦断調査から—」『心理学研究』92巻3号、pp.157-166、2021年8月、共著

[その他]

- 古村健太郎、曾我亨、澤邊潤、三和秀平「行動インサイトを活用した実践のための足場づくりに向けて」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.79-82、2022年2月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 春田悠佳、古村健太郎、島田貴仁、相馬敏彦、金政祐司、荒井崇史「COVID-19は親密な関係をどう変えたか—パンデミック前後での複数のパネルデータから見えてくるもの—」日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会、2021年9月11日～12日、共同
- 相馬敏彦、古村健太郎、荒井崇史、金政祐司、島田貴仁「暴力を振るう相手からの離脱はどのようにして決まるか？—関係離脱意思の段階変化に及ぼす影響因の違い—」日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会、2021年9月11日～12日、共同
- 古村健太郎、相馬敏彦、荒井崇史、金政祐司、島田貴仁「ストーキング被害パターンと交際中のIPV被害の関連」日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会、2021年9月11日～12日、共同
- 古村健太郎「接近コミットメントが心理的暴力を気づきにくくする」日本心理学会第85回大会、2021年9月1日～8日、単独
- 喜入暁、増井啓太、下司忠大、古村健太郎「Dark Triad/Tetrad と問題行動を再考する—社会的関係性の視点から」日本

社会心理学会第62回大会、2021年8月26日～9月1日、共同

- 古村健太郎、金政祐司、浅野良輔「COVID-19パンデミックがもたらす夫婦関係の再評価」日本社会心理学会第62回大会、2021年8月26日～9月1日、共同
- 西村多久磨、古村健太郎「将来目標尺度の信頼性と妥当性の検討—大学生を対象とした検討—」日本教育心理学会第63回総会、2021年8月21日～30日、共同
- 古村健太郎、松重宏和「方言による飲食店リパッケージの創出過程」日本教育心理学会総会発表論文集、2021年8月21日～30日、共同

[講演]

- 「思春期の子どもの心を考える」、弘前市企画部主催、2021年10月
- 第1回むつ市総合経営計画後期基本計画策定市民会議（ワークショップ）、むつ市主催、2021年11月
- 第2回むつ市総合経営計画後期基本計画策定市民会議（ワークショップ）、むつ市主催、2021年12月

(4)学外集中講義など

- 講義「人間関係特論」横浜国立大学大学院教育学研究科

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究「実行意図の形成による恋人間暴力への予防的介入とスマートフォン・アプリの開発」研究代表者、2019年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究（B）「DVのエスカレートを防ぐ：関係性への予防科学的アプローチ」研究分担者、2019年度～2023年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 高校生向けワークショップ「恋愛・友人関係を心理学する」弘前市企画部、弘前大学大学院地域共創科学研究科、弘前大学人文社会科学部共催、2021年7月

[それ以外のもの]

- 社会調査実習成果発表会「社会的インパクト」2022年2月
- 高校生放課後まちづくりクラブ、STEP×弘前大学人文社会科学部地域行動コースコラボ交流会、2021年12月
- 新潟大学・弘前大学・信州大学インターゼミナー、2021年10月～

## 花 田 真 一

(1)現在の研究テーマ

- 実証産業組織論、エネルギー経済学

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 李永俊、花田真一、永田素彦「災害復興感の時系列的変化とその決定要因—被災地住民アンケート調査を用いて—」『NETT』114巻、pp.48-51、2021年10月、共著
- 花田真一、高橋優、久恒整、木村順一「Web調査の地域差に関する研究—東京と青森を比較して—」『弘前大学経済研究』44巻、pp.15-25、2021年12月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Shin-ichi HANADA「A statistical overview of the effects of COVID-19 on migration between rural regions and cities in Japan: Aomori Prefecture and Tokyo as a case example」『COVID-19 若者の地域間移動性向は変わるのか』、2021年11月23日、単独
- 李永俊、花田真一「小中高の地域体験学習が地元愛着と地元就職希望に与える影響—弘前大学生への質問紙調査より—」地域未来創成科学政策研究会、2021年12月1日、共同
- 花田真一「COVID-19で地域間移動性向は変わったのか」地域未来創成科学政策研究会、2021年12月1日、単独

[講演]

- 花田真一「コロナ禍で変容した公益事業分野の持続性」国際公共経済学会第36回研究大会、2021年12月11日～12日、単独
- 花田真一「再生可能エネルギーの拡大持続性に向けて」国際公共経済学会シンポジウム「不確実性の中でのエネルギー規制政策」、2021年7月17日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「地域志向教育が地域愛着と就職地選択行動に及ぼす影響」研究分担者、2020年度～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 受託研究「第6次鶴田町総合計画策定支援」研究代表者、鶴田町、2021年度
- 共同研究「マーケティング調査の理論と実務の接続による教育面及び実践面の効果の研究」研究代表者、株式会社オノフ、2020年度～2021年度

## 松 井 歩

(1)現在の研究テーマ

- 地域漁業をめぐる社会—生態的变化と適応

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 平井太郎、松井歩「ウェブ調査からみた現代日本における農林水産業と多業」『人文社会科学論叢』11号、pp.173-197、2021年8月、共著

[その他]

- 松井歩「漁獲統計からみた1970年以降の青森県における漁業構造の変化」『地域研究方法論の総合的検討Ⅱ』pp.9-16、2022年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- MATSUI Ayumu, SAKITA Seishiro「Getting Along with the “fever”: Micro-scale Differences in Response to Sea Cucumber Market Pressure In Western Hokkaido, Northern Japan」34th International Geographical Congress、2021年8月16日～20日、共同
- 崎田誠志郎、松井歩「北海道南西部におけるナマコブームへの多様な適応・活用戦略」地域漁業学会第63回大会、2021年11月6日～7日、共同

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、研究活動スタート支援「縮小再編成期の小規模漁業が経験する社会—生態的变化の解明」研究代表者、2021年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究（B）「順応的漁場環境ガバナンスにおける村落と家族」研究分担者、2020年度～2023年度

## ビジネスマネジメント講座

### 加 藤 恵 吉

(1)現在の研究テーマ

- 国際税務、法人税法、自然栽培と組織変革

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 加藤恵吉「青森県深浦町第3セクター企業の経営問題に関する考察—深浦町及びしらかみ十二湖株式会社のインタビュー調査から—」『地域社会研究科年報』18号、pp.109-116、2022年3月、単著
- 田村威文、加藤恵吉、河瀬豊「課税所得計算と財務報告の関係」『日本会計研究学会 2018-2020年度特別委員会 税制が企業会計その他の企業行動に及ぼす影響に関する研究（最終報告書）』pp.26-66、2021年9月、共著

[その他]

- 加藤恵吉、黄孝春、内藤周子、ビクター・カーペンター「自然栽培法による農業関係者の利益向上可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.57-61、2022年2月、共著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 加藤恵吉「弘前大学人文社会科学部自然栽培研究グループの活動紹介（趣旨説明）」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラム「自然栽培を学問する」、2022年2月5日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など



- 競争的資金「自然力依存型の農業を営む組織の経営及びマネジメント・コントロール・システムの研究」研究代表者、公益財団法人牧誠財団、2021年度～2022年度

## 森 樹 男

### (1)現在の研究テーマ

- 日系多国籍企業の地域統括本社制
- 北欧の地域活性化モデルと青森県
- 地方企業における商品開発とデザイン
- 観光ビジネスと地域活性化

### (2)著書、論文、その他

#### [その他]

- 森樹男『弘前大学人文社会科学部ビジネス戦略実習 課題解決型学習と学生の主体的な学び—大学生のチャレンジ2021—報告書』弘前大学人文社会科学部、2022年3月、編集
- 森樹男『弘大じょっぱり起業家塾2021 実施報告書』弘前大学、2022年3月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [講演]

- 森樹男「地域の魅力を再発見し、地域づくりのビジョン構成をするには～経営学の視点から～」令和3年度むつサテライトキャンパス「人文講座」、2021年10月28日、むつ市まさかりプラザ会議室、単独

### (4)学外集中講義など

- 青森高等学校ドリーム講座「グローバル経済の統合と分断～Brexitから考える～」青森高校、2021年10月28日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究(C)「地域経済統合の後退が多国籍企業の組織に与える影響—欧州地域統括本社を中心に—」研究代表者、2019年度～2021年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 寄附金「JR東日本寄附講義」JR東日本、2015年度～

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 多国籍企業学会第13回(2021年度)全国大会(弘前大学共催)、統一論題『食のグローバル化と多国籍企業』、弘前大学(オンライン開催)、2021年7月2～4日

## 保 田 宗 良

### (1)現在の研究テーマ

- 地域医療の質的向上と医療マーケティングシステムの構築

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 保田宗良「持続可能な医療、介護サービスの組織革新に関する論点整理の基礎研究」『人文社会科学論叢』11号、pp.161-171、2021年8月、単著
- 保田宗良「医療、介護サービスの地域連携の形態と進め方についての考察」『産業経済研究』22号、pp.71-80、2022年3月、単著

#### [その他]

- 保田宗良「マーケティング思考から考えたまちづくりの進め方についての小論考」『融合』33号、pp.72-78、2022年3月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 保田宗良「介護事業経営の組織革新についての若干の考察」日本消費経済学会全国大会、2021年6月27日、オンライン、単独
- 保田宗良「医療、介護サービスの地域連携の展望について」日本産業経済学会全国大会、2021年9月11日、オンライン、単独
- 保田宗良「医療、介護サービスの進展とまちづくりについて：事例研究の考察」日本消費経済学会東日本大会、2021年12



月18日、オンライン、単独

- 保田宗良「コロナ禍における医療サービスに関する論点整理の研究」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、2022年3月21日、オンライン、単独

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 消費者フォーラム in HIROSAKI、弘前大学、2022年1月23日

[それ以外のもの]

- 日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、弘前大学（オンライン）、2022年3月21日

## 大 倉 邦 夫

(1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 大倉邦夫「社会的協働の成功要因と提携能力に関する考察」『人文社会科学論叢』11号、pp.119-135、2021年8月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「企業とNPOの組織間関係を成功に導く協働マネジャーの役割と能力の解明」研究代表者、2021年度～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 受託研究「関係人口創出に係る調査研究」研究代表者、南部町、2021年度

## 熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊田憲、小杉雅俊「佐賀県によるクラウドファンディング：地方創生の実現に向けた影響と効果」『人文社会科学論叢』11号、pp.81-94、2021年8月、共著

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングと地域イノベーション：ファンド・インキュベーション概念の探求的考察」『季刊 個人金融2021年秋号』13巻3号、pp.89-100、2021年11月、共著

- 熊田憲、小杉雅俊「ファンド・インキュベーション概念の発展可能性：クラウドファンディングを用いた商品開発過程の考察」『地域未来創成センタージャーナル』8巻、pp.13-20、2022年2月、共著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 佐賀県庁ファンドレーザーによるオンラインピッチイベント「クラウドファンディングの聖地 SAGA Special Pitch」、2022年2月14日

## 高 島 克 史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論、ベンチャー企業論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 高島克史「価値創造と社会変化のアントレプレナーシップ」『人文社会科学論叢』12号、pp.101-111、2022年2月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「起業機会認識・実現に対する起業家ネットワークの構築・解体プロセスとその影響」研究代表者、2020年度～2022年度

## 内藤 周子

### (1)現在の研究テーマ

- 会計学、財務会計、IFRS、国際財務報告、公会計、農業会計

### (2)著書、論文、その他

#### [その他]

- 加藤恵吉、黄孝春、内藤周子、ピクター・カーペンター「自然栽培法による農業関係者の利益向上可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.57-60、2022年2月、共著

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究 (B)「農業会計における測定属性の理論形成と財務指標の開発」研究代表者、2017年度～2022年度
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「デジタル社会に求められる職業会計士の役割・能力と今後の会計教育のあり方」研究分担者、2021年度～2024年度

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生塾「企業活動と環境問題」講師、2022年2月9日
- 地域未来創生センターフォーラム「自然栽培を学問する」司会、2022年2月5日

## 商 哲

### (1)現在の研究テーマ

- バランスドスコアカードの継続運用

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 商哲「BSCと他のMASとの連携に対する計画—株式会社亀山電機の事例から—」『管理会計学』30巻1号、pp.21-36、2022年3月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 商哲「BSCと他のMASとの運用におけるコントロールのメカニズム」日本原価計算研究学会第47回全国大会、2021年8月30日～9月1日、単独
- 商哲「影響要因のBSC運用に影響を及ぼすロジックに関する分析」日本管理会計学会2021年度年次全国大会、2021年8月26日～28日、単独
- SHANG ZHE「Relationship between Multiple Management Accounting Tools for Strategy Implementation」First EAA (European Accounting Association) Virtual Annual Congress、2021年5月26日～28日、単独

### (4)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 競争的資金「BSCと他のMASとの連携に関する一考察—二つの事例から—」研究代表者、公益財団法人メルコ学術振興財団、2020年度～2021年度
- 競争的資金「BSC運用における影響要因の変化と変化による企業の対応に関する研究」研究代表者、公益財団法人牧誠財団、2021年度～2022年度

## 林 彦 櫻

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 林彦櫻「日本安定増長期中小零售業の事業転型 (1973-1985)」『全球視野与中国経験——第三回中国企業史研究 workshop 論文集』pp.409-410、2021年8月、単著
- Yanying Lin「Small Family Businesses and Network in Retail Industry: The Rise and Fall of Shopping Streets in Post-war Japan」『2nd World Congress on Business History Online Paper』2021年9月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- Yanying Lin「Small Family Businesses and Network in Retail Industry: The Rise and Fall of Shopping Streets in Post-war Japan」2nd World Congress on Business History、2021年9月9日～11日、単独

- 林彦櫻「日本穩定増長期中小零售業の事業転型（1973-1985）」第三回中国企業史ワークショップ、2021年8月7日～8日、単独
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費基金、若手研究「零細小売業の衰退に関する歴史的研究」研究代表者、2020年度～2022年度

## 経済システム講座

### 李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 李永俊、花田真一「小中高の地域体験学習が地元愛着と地元就職希望に与える影響—弘前大学生への質問紙調査より—」『地域社会研究科年報』18号、pp.61-70、2022年3月、共著
- 李永俊、永田素彦、花田真一「災害復興感の時系列的変化とその決定要因—被災地住民アンケート調査を用いて—」『NETT』114号、pp.48-51、2021年10月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李永俊「大学・学生と地域が協働して地域と子どもを守る」人文社会科学系3大学オンラインフォーラム「誰もが助かるレジリエントな地域社会づくりを考える—新型コロナ禍の地方大学の役割—」、2022年3月2日、単独
  - Young-Jun Lee「The Effects of Regionally-oriented Experience-based Study of Attachment to Local Areas and Workplace Selection Analysis of a Survey of Hirosaki University」COVID-19 and migration between rural regions and cities in Finland, Japan and South Korea - Current research and preliminary reflections、2021年11月23日、単独
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費基金、基盤研究（C）「地域志向教育が地域愛着と就職地選択行動に及ぼす影響」研究代表者、2020年度～2022年度

### 飯 島 裕 胤

(1)現在の研究テーマ

- 応用理論経済学、企業金融論、ファッション・ブランドの経済分析（とくにライセンス契約について）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「ファッション・デザインに関する産業財産権の法と経済分析」研究代表者、2019年度～2022年度

### 黄 孝 春

(1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、自然栽培の経営分析、農産物知財マネジメント

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 加藤恵吉、黄孝春、内藤周子、ビクター・カーペンター「自然栽培法による農業関係者の利益向上の可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.57-61、2022年2月、共著
- 黄孝春、山野豊、今智之「植物品種における知財マネジメントの実態と課題」『地域社会研究科年報』18号、2022年3月、共著
- 黄孝春、ビクター・カーペンター「Intellectual Property and Commercializing Red-Fleshed Apples」『人文社会科学論叢』12号、pp.195-207、2022年3月、共著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 黄孝春「弘前大学人文社会科学部自然栽培研究グループの活動紹介（趣旨説明）」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラム「自然栽培を学問する」、2022年2月5日、単独
- 黄孝春「植物品種における知財マネジメントの実態と課題」政策科学研究会、2022年2月2日、単独
- 黄孝春「りんご新品種の知財マネジメント」クラブ制研究会、2022年3月22日、単独
- 黄孝春「みどりの食料システム戦略を地域でどう生かすか」ポストコロナの地域自治と経済的自律、2021年12月15日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「リンゴ産業における品種経営およびその導入に関する基礎的研究」研究代表者、2020年度～2022年度
- 競争的資金「自然力依存型の農業を営む組織の経営及びマネジメント・コントロール・システムの研究」研究分担者、公益財団法人牧城財団、2021年度～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・共同研究「りんご新品種の調査とその特性分析」研究代表者、株式会社津軽りんご市場、2021年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターフォーラム「自然栽培を学問する」、2022年2月5日

[それ以外のもの]

- 弘前大学経済学会第46回大会、2021年10月23日

## 福田進治

(1)現在の研究テーマ

- 日本のリカード研究史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 福田進治「福田徳三のリカード研究」『人文社会科学論叢』第12号、pp.179-193、2022年2月、単著

[その他]

- 福田進治・加藤徳子「消費者問題講義のアンケート調査報告—授業評価と教育効果—」『人文社会科学論叢』第11号、pp.137-160、2021年8月、共著
- 福田進治「2021年度消費者教育推進事業の概要」「消費者問題講義の成果と課題」『中高大連携を目指した消費者教育の取り組み』（2021年度消費者教育推進事業報告書）pp.1-9、2022年2月、単著
- 福田進治「経済学史と消費者問題」『青森県消費者問題研究会創立30周年記念誌』pp.25-26、2022年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 福田進治「福田徳三のリカード研究」第72回経済思想研究会、2021年12月26日、山形大学（オンライン開催）、単独
- 福田進治「気候変動と資本主義—消費者市民社会は大衆のアヘンか？—」青森県消費者問題研究会定例セミナー、2022年2月26日、弘前大学（オンライン開催）、単独

[討論]

- 福田進治「垣原秀俊：なぜ価値を労働で測るのか？—『国富論』における「支配労働」概念の再検討—」第44回リカードウ研究会、立教大学（オンライン開催）、2022年1月9日、単独

[講演]

- 福田進治「福島第一原発事故と地域エネルギー事業」（ラウンドテーブル「東日本大震災と経済学史研究（2）—震災から10年、経済学史研究者は何を考え、何をやってきたか？—」）第42回経済学史学会東北部会例会、弘前大学（オンライン開催）、2021年5月29日、単独

(4)学外集中講義など

- 青森北高等学校系統別模擬授業／進路ガイダンス、「マルクスと気候変動—資本主義は成長を目指すべきか？—」青森北高等学校（オンライン開催）、2021年10月12日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「リカードウ・マルサス論争と古典派経済学の展開:その交錯と対抗および現代性の研究」研究分担者、2017年度～2021年度
- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「戦間期以降の日本のリカード研究史の全体像を再構成する研究」研究代表者、2020年度～2024年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 第42回経済学史学会東北部会例会、弘前大学（オンライン開催）、2021年5月29日
- 第30回マルサス学会大会、北海道教育大学（オンライン開催）、2021年7月3日
- 消費者教育懇談会（弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会）、弘前大学、2021年11月23日
- 消費者フォーラム in HIROSAKI（弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会）、弘前大学、2022年1月23日

## 細 矢 浩 志

(1)現在の研究テーマ

- EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 細矢浩志「CASE時代の欧州自動車産業の『脱炭素』戦略」『産業学会研究年報』第37号、pp.41-59、2022年3月、単著
- 細矢浩志「EU統合進展下の中東欧自動車産業—欧州生産ネットワークにおける中東欧の役割—」『東京経大会誌』第313号、pp.51-72、2022年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 細矢浩志「欧州自動車産業の「脱炭素」戦略」第59回産業学会全国研究大会、2021年6月12日～13日、単独

[講演]

- 細矢浩志「欧州における自動車電動化への対応と思惑」S&Tセミナー「自動車電動化動向：欧州EVシフトの思惑と日本企業の対応、将来の差別化技術」、2022年1月25日、単独

(4)学外集中講義など

- 進学情報ガイダンス・模擬講義「経済学」五所川原第一高等学校、2021年7月9日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「欧州自動車多国籍企業の生産ネットワーク戦略の基本構造と進化に関する実証的研究」研究代表者、2017年度～2021年度

## 金 目 哲 郎

(1)現在の研究テーマ

- 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 金目哲郎「第3章 地方交付税」「第6章 地方財政の運営」、篠原正博編著『改訂版 テキストブック 地方財政』pp.48-66、pp.108-126、創成社、2021年5月、分担執筆
- 金目哲郎「第6章 地域経済政策としての「ふるさと納税制度」の課題と展望」、平井太郎編著『SDGsを足許から考えかたちにする』pp.119-132、弘前大学出版会、2022年3月、分担執筆

[論文]

- Kaname Tetsuro「Policy Issues for Local Governments in Revitalizing Japan's Local Economies in the Post-coronavirus Era」『충남연구』5巻1号、pp.1-26、2021年4月、単著

(4)学外集中講義など

- 出張講義「私たちは格差社会にどう立ち向かうのか：大学で学ぶ財政学で考えよう」北海道苫小牧東高等学校ジョイントセミナー、2021年11月12日

## 桑波田 浩之

(1)現在の研究テーマ

- グローバル化が所得格差に与える影響、国際貿易の実証分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 桑波田浩之「新型コロナウイルスが青森県経済へ与える影響に関する実証研究」『ハピネスプロモーション事業実施報告書』2021年9月、単著

(3)研究発表、講演

[講演]

- 桑波田浩之「数字で見る青森経済—新型コロナウイルスが県経済へ与える影響—」ひろさき未来塾、2022年1月20日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、若手研究「グローバリゼーションが経営者の報酬へ与える影響に関する計量実証研究」研究代表者、2020年度～2022年度

## 小谷田 文彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Fumihiko KOYATA「The possibility of expanding telework in local cities of the Aomori region.」COVID-19 and migration between rural regions and cities in Finland, Japan and South Korea - Current research and preliminary reflections、2021年11月23日、単独
- 小谷田文彦「青森県の人口減少が青森県経済に与える影響分析」令和3年度第1回地域未来創生政策科学研究会、2021年10月6日、単独

## 山本 康裕

(1)現在の研究テーマ

- 金融政策全般
- 銀行貸出の変動が実体経済に与える影響
- 青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 山本康裕「マネタリーベースの増大が地方の実体経済に与える効果I：東日本編」『人文社会科学論叢』12号、pp.113-147、2022年2月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究(C)「財政金融政策が地方の実体経済に与える効果を計測可能にするFAVARモデルの構築」研究代表者、2021年度～2023年度

## 公共政策講座

### 平野 潔

(1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 平野潔「事例の分析から見る青森の裁判員裁判」『地域未来創生センタージャーナル』8号、pp.41-48、2022年2月、単著

[その他]



- 平野潔編『青森県における地域司法の現状と連携可能性』pp.1-110、2022年3月
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 裁判員制度シンポジウム「裁判員制度を伝える」弘前大学、2021年11月6日

## 児山正史

### (1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場（準市場）としての福祉・医療の選択制

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 児山正史「準市場としての保育所の選択制（3）」『人文社会科学論叢』11号、pp.95-118、2021年8月、単著
- 児山正史「準市場の実証分析：日本・イギリスの福祉・医療・教育」『季刊 行政管理研究』176号、pp.35-49、2021年12月、単著
- 児山正史「準市場としての保育所の選択制（4・完）」『人文社会科学論叢』12号、pp.149-178、2022年2月、単著

## 近藤 史

### (1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展
- 生態環境の利用と保全
- 津軽塗の多様性の復権と技術継承

### (2)著書、論文、その他

#### [その他]

- 近藤史「津軽塗の「骨格をつくる」指物木地師弘前市T工房での聞き取り調査から」『地域研究方法論の総合的検討』pp.33-58、2022年3月、単著

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究（A）「西アフリカ・サヘル地域の環境修復による地域住民の生業支援と平和貢献モデルの構築」研究分担者、2021年度～2025年度
- 科学研究費基金、基盤研究（C）「タンザニア南部高地における「火」の制御を核とした植林技術の普及に関する研究」研究代表者、2018年度～2022年度

## 白石 壮一郎

### (1)現在の研究テーマ

- 移住・移動者とホーム（家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）論など

### (2)著書、論文、その他

#### [その他]

- 白石壮一郎「他者の文化への共感的理解：イスラーム実践についての日本人学生の見方」『地域研究方法論の総合的検討』pp.67-72、2022年3月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 白石壮一郎「コメント フィールドワークで挫折した／できなかったみなさんへ」2021年度東洋大学社会学部社会文化システム学科・国際社会学科体験演習公開シンポジウム「足もとに探るグローバル化と異文化理解：新型コロナウイルス感染症の影響下における体験学習の試み」、2022年1月14日、単独

#### [講演]

- 白石壮一郎「コメント わかる／かわる：フィールドワーク教育を、専門教育の埒の外へ！」人間を育むフィールドワーク教育、2021年12月5日、単独

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金、基盤研究（B）「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」研究分担者、2018年度～2021年度

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「東アフリカ高学歴女性のライフコース戦略の研究:農村家族関係と新興中間層形成の動態」研究代表者、2019年度～2022年度
- 科学研究費基金、挑戦的萌芽研究「ハンセン病療養所における生と再生:個人情報保護とアーカイブ化の可能性」研究分担者、2020年度～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 受託研究「農山漁村「地域経営」の推進に係るサポート及び評価・提言」研究分担者、青森県、2020年度～2021年度

## 長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 長谷河亜希子「米国のフランチャイズ契約における no-poach 条項について」『現代経済法の課題と理論 金井貴嗣先生古稀祝賀論文集』pp.137-153、2022年2月、単著
- 長谷河亜希子「優越的地位の濫用規制とフランチャイズ問題:改正フランチャイズ・ガイドラインを素材として」『公正取引』854号、pp.12-17、2021年12月、単著
- 長谷河亜希子「デジタル・プラットフォームをめぐる課題改善に向けて—労働プラットフォーム規制を中心に」『中小商工業研究』149号、pp.20-28、2021年10月、単著

[その他]

- 長谷河亜希子「令和元年(行ウ)第460号 労働委員会命令取消請求事件意見書」2021年12月、単著
- 長谷河亜希子「優越的地位の濫用と従業員等派遣例外事由—エディオン事件」『令和2年度重要判例解説(ジュリスト1557号)』pp.208-209、2021年4月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 長谷河亜希子「労働プラットフォーム規制について—経済法による規制を中心に」民主主義科学者協会法律部会商法経済法分科会オンライン夏合宿、2021年9月19日～20日、単独
- 長谷河亜希子「労働プラットフォーム規制と経済法」関西経済法研究会、2021年10月2日、単独
- 長谷河亜希子「社会関係のDXと経済法—プラットフォーム労働を中心に—」民主主義科学者協会法律部会2021年度学術総会ミニシンポ「デジタル改革関連法による国家・社会関係の「転形」と論点」、2021年12月1日、単独
- 長谷河亜希子「経済法と労働法の交錯」フリーランス研究会、2022年2月17日、単独
- 石田真、長谷河亜希子「プラットフォーム労働と労働法・経済法」データ駆動型社会の法に関する領域横断の研究会、2021年5月22日、共同
- 長谷河亜希子「労働市場におけるフェアネス」民主主義科学者協会法律部会オンライン春合宿、2022年3月26日～27日、単独
- 長谷河亜希子「諸外国のフランチャイズの法規制」日本弁護士連合会シンポジウム「日本のフランチャイズ取引適正化法制定に向けて」、2021年12月10日、単独

(4)学外集中講義など

- 夏季集中講義「経済法」福島大学、2021年8月26日～27日、30日～31日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究 (C)「競争法によるオンライン・プラットフォーム規制とギグ・ワーカーの保護に関する研究」研究代表者、2019年度～2022年度
- 科学研究費補助金、基盤研究 (A)「データ駆動型社会の法に関する領域横断的研究—デジタルプラットフォームを焦点に」研究分担者、2019年度～2023年度

## 吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 吉村顕真「『懲罰的』損害賠償の民事的解釈—アメリカ法の学説に着目して—」『青森法政論叢』22号、pp.21-41、2021年8月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 吉村顕真「『懲罰的』損害賠償の民事的解釈」法政大学実効的救済研究会、2021年8月9日、単独
- 吉村顕真「『懲罰的』損害賠償の民事的解釈」北海道大学民事法研究会、2021年6月4日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「精神障害者の不法行為責任を巡る民法上の課題とその対応—アメリカ法を手掛かりに」研究代表者、2021年度～2023年度

## 伊 藤 健

(1)現在の研究テーマ

- 違憲審査基準論、憲法訴訟論

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費基金、基盤研究（C）「違憲審査における論証責任・論証度の役割と違憲審査基準論の再構築」研究分担者、2020年度～2022年度

## 渋 田 美 羽

(1)現在の研究テーマ

- 中小企業における労働条件決定、フランスにおける労働者の集団的利益代表
- 上記課題を中心とした労働法に関する日仏比較法研究

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 渋田美羽「【判例解説】採用内定後のバックグラウンド調査の結果に基づく内定取消の有効性（ドリームエクスチェンジ事件・東京地判令元・8・7労経速2405号13頁）」『やまぐちの労働』662号、pp.6-7、2021年10月、単著
- 渋田美羽「なぜ労働法を研究するの？（特集 キャリアについて考える）【対談：聞き手・紺屋博昭】」『News letter = ニューズレター』61号、pp.2-16、2021年4月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 渋田美羽「〈判例評釈〉ドリームエクスチェンジ事件 東京地判令元8.7 労経速2405号13頁」九州社会法判例研究会、オンライン、2021年6月22日
- 渋田美羽「〈判例評釈〉学校法人関西外国語大学事件・大阪高判令3・1・22 労経速2444号3頁」九州社会法判例研究会、オンライン、2021年11月2日
- 渋田美羽「〈判例評釈〉メトロコマース事件・最三小判令2・10・13 労判1229号90頁」九州社会法判例研究会、オンライン、2021年12月6日
- 渋田美羽「〈判例評釈〉中途採用者に対する採用内定後の調査の結果に基づく内定取消の有効性とその後の再就職による就労意思の喪失（前掲・ドリームエクスチェンジ事件）」東北社会法研究会、オンライン、2022年1月22日

[講演]

- 渋田美羽「ハラスメント問題を法的に考える」2021年度地域未来創生塾（第3回）、ヒロロ3階（オンライン併用）、2021年11月10日